ジュゴン　Vol.98

ちゃんぷるニュース

SDCC Save the Dugong Campaign Center

2018. 6. 5

CONTENTS

●2/3 情勢・今すぐ埋め立て承認撤回を
●　真の世界自然遺産登録を実現すために
●4/5 5・26 国会包囲行動
●　4・25 カヌー隊海上座り込み
●6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
●　コラム「邑とジュゴン信仰」
●8　お知らせ・案内

今、辺野古新基地建設に向けた埋め立て護岸建設のための石材のほとんどがわが町本部町をはじめ本部半島にある数か所の砕石鉱山から辺野古に運び込まれている。

昨年 12 月 15 日から強行された本部港塩川地区（塩川港）からの海上搬送は、５月 17 日現在合計５４回を数えた。辺野古専用に設けられた岸壁には県道を挟んで隣接する琉球セメント安和鉱山から 10 数台の荷役ダンプがピストンで石材を運び込み山積みにする。岸壁に横付けした運搬船はそれを巨大な爪のついたクレーンでつかみ上げる。午前８時から始まる作業は正午には 1000 トン強の石材を積み込み運搬船は南回りで辺野古に向かい翌日大浦湾に入る。

ふる里の石は基地建設に使わせない！
なりふり構わぬ石材搬入に防衛局の焦りを見る

本部町島ぐるみ会議は、「本部町は港を使わせないで！」の旗を掲げ、搬出が始まった当初から塩川港での搬出阻止の行動に取り組んできた。基地建設のために地元の石を使わすわけにはいかない。この石が辺野古、大浦の海を壊し、違法工事のために必要な手続きをも無視し違法に運ばれていることを訴え続けなければならない。

わずか１０人での行動の時もある。たとえ１０数分でも運び込みを止める。機動隊は最近では塩川港内で待機しており、すぐにやってくる。しかし排除されてもダンプの前での行動を繰り返す。
４月中旬、それまでの運搬船２隻による交互搬送を３隻体制に増強し、この間は日祝日以外ほぼ毎日搬出され、近々4 隻体制の下、午前１回午後１回の搬出を目論んでいる。

先日、朝からの強風と高波のため那覇空港新滑走路建設向けの資材積み込みを含めすべての港での作業が２日間にわたり中止されたことがあった。しかし、辺野古への海上搬送は強行された。

政府はジュゴン裁判の結審、判決をにらみ、また来る知事選挙までに辺野古の海に土砂を放り込むことに躍起になり焦っている。違法、無謀な海上搬送強行はそのためだ。　（沖縄　高垣喜三）

[WEB] http://www.sdcc.jp/　[EMAIL] info@sdcc.jp

美ら海壊すな　土砂で埋めるな
5.26 国会包囲行動（４面）

塩川港から運搬船に積み込まれる石材（本面）

情　勢　今すぐ埋め立て承認撤回を～5･18沖縄県交渉

６月２８日米国連邦裁判所での結審、７月埋め立て土砂の投入などを前に、埋め立て承認撤回の決意を沖縄県から引き出すための交渉でした。沖縄与党県議団（おきなわ、共産、社民、社大）７人の参加で、渡嘉敷･県基地統括官と交渉しました。

まず、翁長知事が「環境保全措置等について看過できない事態となれば、躊躇することなく撤回を必ず行う」（４月２５日）との発言をふまえて、「７月埋め立て土砂の投入が看過できない事態ではないのか」と追及しました。沖縄県は「法令違反があるか否かを慎重に調査している」とする一方、ジュゴンＣの行方不明については「沖縄防衛局が工事の影響を否定している」（海岸防災課）と腰が引けた態度に終始しました。ジュゴンＣが辺野古大浦湾を生息域にしていたことは環境省、沖縄県が認めてきたことで、沖縄防衛局が作成した環境影響評価書でも「ジュゴンの生息範囲の変化が見られたときは、工事との関連性を検討し、対策を行う」（第７章保全措置１．９．（１））としています。沖縄防衛局はこのことを環境監視等委員会で議論せずに、「工事の影響ではない」ことを前提にしています。環境監視等委員会の役割は何なのでしょうか。

公有水面埋立法第４条は「埋め立て免許の取り消し」の条文です。１項２号では「環境保全および災害防止について配慮すべき」項目が明記され、「埋め立て願書（申請書）」の内容審査では、「免許禁止事項」が列挙されています。「（１）護岸工事、その他の工作物の設置において…天然記念物などへの悪影響（を与えてはならない）」（実務便覧）としています。天然記念物ジュゴンの行方不明は免許禁止事項に該当します。沖縄防衛局は公有水面埋立法違反をしているのです。

ジュゴン訴訟の結審（高裁差し戻し審）が６月２８日に決まりました。前回米国連邦地裁で私たちの原告が負けたのは「工事が始まったから」です。日本の最高裁で埋め立て工事が合法であるとの事実が継続しています。だから、政府防衛省が埋め立て工事を急いでいるのです。沖縄防衛局が県の行政指導を従わない中で、今こそ撤回すべきです。撤回するための手続きには１カ月の「聴聞」期間が必要です。早急に撤回に向けた行政手続きが必要です。

（事務局　蜷川義章）

県との交渉に臨む、海勢頭豊代表とスタッフ、桜井国俊･沖縄大学名誉教授、真喜志好一･ジュゴン訴訟原告団。後列は沖縄県議

埋め立て承認の撤回を。県民投票の成功も

７月土砂投入を前に、埋め立て承認撤回が正念場になってきています。この間、オール沖縄内部で「承認撤回か、県民投票か」の議論が白熱してきましたが、５月２３日から「『辺野古』県民投票の会」が県民投票条例制定運動を始めます。２か月間で、有権者の５０分の１以上が必要ですが、１０分の１にあたる１１万５千人の署名を目指すとしています。県民投票が始まった限りは、成功させなければなりません。６月２８日ジュゴン訴訟の結審や、７月埋め立て土砂の投入を前に、沖縄県が埋め立て承認撤回をただちに行わなければなりません。しかし、「県民投票の会」が県民投票を通じて多くの県民が埋め立て土砂投入反対運動に参加することで運動の広がりができれば喜ばしい限りです。辺野古ゲート前や本部塩川港での闘い、埋め立て承認撤回の闘い、そして県民投票の成功で、埋め立て土砂投入を阻止し、知事選挙に勝利しましょう。

（事務局　蜷川義章）

真の世界自然遺産登録を実現するために、米軍に協力を求めるべき！

IUCN は５月４日、ユネスコの諮問機関として「奄美・徳之島・沖縄島北部及び西表島」の登録延期を勧告しました。５月８日、中川環境大臣は「推薦の取り下げも選択肢に。再申請も検討する」と方向が定まらない談話を出しました。「登録延期」は「登録」、「情報照会」に次ぐもので、推薦書の抜本的な改定が必要。抜本的改定も再申請も同じ日数がかかるからです。６月末、バーレーンで開かれるユネスコ世界遺産委員会で自然遺産登録の可否が決定されます。

「登録延期」の基本的な要因は、やんばるの森の米軍北部訓練場の問題です。IUCN 評価書では「北部訓練跡地を含める沖縄島北部の区域見直しが必要」としています。米軍は基地内のノグチゲラ、ヤンバルクイナなど希少生物を調査し、自然の管理計画を策定しています。日本政府は登録推薦に関する情報を市民・NGO に公開するとともに、米軍に協力を求めるべきです。オスプレイ訓練の制約を受けることを米軍が嫌がるかもしれませんが。また、１６年 IUCN 決議にある辺野古埋め立て土砂の外来種対策も留意すべき課題です。

（事務局　蜷川義章）

ヘリパッドから飛び立ったオスプレイ　3/2 高江

昨年 10 月 11 日、東村高江の民家にほど近い牧草地に米軍の大型輸送ヘリCH53Eが墜落、炎上しました。米軍ヘリやオスプレイが飛び交う自然遺産などありえません。

写真：琉球新報

4月20日　防衛省・環境省交渉報告

４月 20 日に環境省、防衛省と交渉を持ちました。

環境省には、防衛省に辺野古大浦湾の海草藻場の保全や移植先などの検討状況を問うよう求めました。「アセス評価書に書いてあることすら防衛省は実行していない。環境省はどうするのか？」との問いに、「検討する」と答えざるを得ませんでした。やんばるの世界自然遺産申請に関しては、「北部演習場のオスプレイ訓練などに関して米軍に環境管理を要求しないのか？」と問いました。担当者はユネスコによる「延期」の感触を得ていたのか、言葉を濁すだけでした。

防衛省では、環境アセス評価書の保全措置を一切履行していないと追及しました。防衛省はジュゴンＣの行方不明に関し「工事の影響ではない」としていますが、環境監視等委員会で議論した議事録がないこと。またアセス評価書では「ジュゴンの生息範囲に変化が見られたときは、工事との関連性を検討し対策を行うこと」とあるのに実行せず、環境監視等委員会では委員の意見も無視した運営を行い、環境保全の機能を果たしていないことを追求しました。

防衛省の対応は、「環境監視等委員会の議事録書に記載している通り」と繰り返すのみ。

「我々も議事録を読んでいる。どこに記載してあるのか？」と問うても「記載のとおりです」（防衛省）。６月のジュゴン訴訟結審を意識し、いっさい具体的な返事はしないのです。沖縄県が、一刻も早く承認の撤回を実行することを強く求めます。

（関西　松島洋介）

4/20 環境省

東　京　「美ら海　壊すな　土砂で埋めるな　5・26国会包囲行動」

「美ら海　壊すな　土砂で埋めるな　5・26国会包囲行動」が、基地の県内移設に反対する県民会議や国会包囲実行委員会、総がかり行動の共催で行われ、１万人が参加しました。

国会包囲実行委員会のグリンピースの野平さんは、「辺野古の海底は、軟弱地盤と活断層だ。そんなところに基地建設はあり得ない。税金の無駄使いだ。県民の意思を暴力で弾圧する暴走がなぜ止まらないのか！それは、東京の運動が弱いからだ。建設阻止するために全力で考えて行動しよう」と、挨拶。

オール沖縄会議事務局長の山本隆司さんは、「沖縄の要求はたった３つ。辺野古建設をやめること、普天間を返還すること、オスプレイの撤去です。なぜ、たったそれだけができないのか！」と、今でも基地被害が続いていることを報告しました。

各政党挨拶の最後に、伊波洋一参議員は、「辺野古大浦湾は、沖縄だけのものではない。世界の宝だ。それを基地のために埋め立てようとしている。」と、政府の暴挙を非難。

ヘリ基地反対協共同代表の安次富さんは、米軍機の安全飛行の高度が沖縄高専や久辺小学校、久辺中学校などが該当するのに、違反にはならないとする政府の答弁に「沖縄の子供たちの命を何とも思っていない。こんなやり方に屈しない」と決意を述べました。

SDCC からのアピール

また、ＳＤＣＣを含めた辺野古実の８団体が、辺野古埋め立て反対の連動行動のアピールを行い、「基地はいらない、辺野古にいらない」などと、コールを繰り返して、ヒューマンチェーンを行いました。

（首都圏　宮城韶子）

参加者から　おかしい！、悲しい！でも、チバリヨー！！

私はこの集会で、美ら海を埋め立てて新基地を造ることが、いかに愚かな事か改めて思い知りました。

それは①辺野古の大浦湾は各断層がある可能性がある事、②海底は超軟弱基盤で、通称マヨネーズ基盤と言われている事、③米軍基準では、基地周辺に5.5m 以上の高い建物は認められないのに、沖縄高専、久辺小中学校、辺野古弾薬庫等が制限を超えており、それが適用除外されている。など地震の震源になるような場所で、それもマヨネーズ基盤で、子供達の生命も危険にさらされるとは、おかしいです。

思いやり予算は際限なく、現地で暮らしている人への思いやりは、微塵もない。悲しいです!!

でも、チバリヨー（がんばろう）!!　沖縄の人々は、これ以上がんばらないで、頑張るのは沖縄県以外に暮らす私達。さあ～手をつないでチバリヨー!!

（首都圏　佐久間照子）

大　阪

5/26 国会包囲同日アクション

５月26日、STOP！辺野古新基地建設！大阪アクション主催で集会とデモを行いました。午後から神戸や大阪駅前で街頭宣伝に取り組んだ仲間などが、大阪中之島に駆けつけました。

5/27 ピースマーケットのせ

５月27日、ピースマーケットのせ 2018 にブース参加。たくさんのブースが並びにぎわいました。ミニステージで、ジュゴンのアピールもさせてもらい、１日で署名が189 筆集まりました。

沖　縄

沖縄「日本復帰」46年を問う ～今夏、辺野古への土砂投入を許さない！5・13集会

一坪反戦地主会・関東ブロック主催の『沖縄「日本復帰」46 年を問う～今夏、辺野古への土砂投入を許さない！5・13 集会』 が、南大塚ホールで行われ、前名護市長の稲嶺さんの話を聴きたいと、土砂降りの中、多くの方が詰めかけました。

戦時中に生まれた稲嶺さんは、貧しい幼少期を過ごしたそうです。だからこそ、市長になった時に、副市長二人体制をやめて、その人件費で、「子ども夢基金」を作り、子供たちを応援してきたそうです。それ以外にも、市政改革を手がけて市民のために公約を実現してきた話しや今回の選挙の事、名護市役所へのヘイト攻撃の話、祖国復帰とは何だったのか、この国は法治国家なのかなど、いろいろ話してくださいました。

また、全国各地からカンパが寄せられていた、「稲嶺進後援会」は、「誇りある名護市を作る会」となり、今後も「辺野古新基地は作らせない」ために頑張って行くと、力強く不屈の決意を語りました。

（首都圏　宮城韶子）

辺野古ゲート前 500 人行動

4月23 日から28 日までの６日間、連日 500 人以上、最終日は 1600 人が座り込みに参加しました。これまで以上に厳しい機動隊の排除が行われましたが、県内参加者が８割を占め、初参加者や久しぶりの参加者もあり、ゲート前が活気づきました。今後のあきらめない闘いにつながる取り組みとなりました。

写真提供：ティオジュゴン桑原

カヌー隊での取り組み4.25海上座り込み

「4月２５日海上座り込み大行動」に参加してきました。２０１７年4月２５日、辺野古・大浦湾の美ら海に捨て石が投下され、それから一年の節目である海上大行動。大浦湾側の護岸工事に続き、１１月6日には辺野古側の護岸も着工されてしまっています。

この一連の護岸工事は、沖縄の民意を完全に無視した強行工事です。世論調査では、沖縄県民の七割強が辺野古新基地建設に反対。１９９７年１２月の名護市民投票でも既に民意は示されています。市民投票から２１年、民意の原点は揺らいでいません。戦争に繋がる基地は絶対嫌！生物多様性、豊かな海を守りたい！新基地建設に反対することは、命を守る事です。

２５日、カヌー隊は８２名、抗議船に乗った仲間を含めると２２２名の参加者が「海上に座り込み」ました。しかし政府は、目に見える場所である浅瀬の工事を強行し続け、手を緩める事はありませんでした。

第１回目の海上座り込み行動があった7月２５日および第２回目の１０月２５日では、「数の力で工事を止めよう！」というスローガンの通り、私達の「数の力」で工事は止まりました。沖縄県内はもちろんのこと、県外からも沢山の仲間が両日集まったからです。私達の強い意志を恐れた防衛局は、工事を丸１日中断しました。

しかしこの間の２５日は違いました。沢山の抗議の声、シュプレヒコール、県内県外からの応援メッセージが読み上げられている中、工事は進んでいきました。政府は焦っています。強行工事を止める為には、もっと沢山の仲間が現地に集まる必要があります。6月２５日に急遽、へり基地反対協主催の第４回海上座り込みが呼びかけられました。みんなで現地に行って工事を止めよう！

（関西　岡村藤美）

報告

アースデイ東京 2018

～ One Peace Okinawa ～

4月21日（土）～22（日）の2日間、代々木公園でアースデイ東京2018が開催されました。ジュゴン保護キャンペーンセンターは昨年に引き続き、One Peace Okinawa（アースデイ東京2018実行委員企画）として参加しました。今年のテーマは、「伝えたい、沖縄のこと」でした。「青い海と珊瑚礁だけでは語れない、沖縄のリアルから日本の平和を一緒に考えませんか？」（呼びかけチラシより）にあるように、今起きている沖縄の現実を「見て・聞いて・知ってもらう」ことを目指しました。

今年は特にトークと展示を充実させました。トークでは、ベテランズ・フォー・ピース・ジャパンの井筒高雄さん「元自衛官に聞く！私たちの平和を守るために米軍基地って本当に必要なの？」。映画監督の古賀加奈子さん「ドキュメンタリー映画『やんばるの森』のつくりかた」。弁護士の武井由起子さんとジャーナリストの大矢英子さんのクロストーク。学生座談会「若者と沖縄」など、どれも情勢にマッチしたお話でした。

展示企画では、水中写真家の中村卓哉さんの「辺野古・大浦湾の写真」、牧志治さんの「墜落したオスプレイの水中写真」、沖縄の米軍基地マップなど沖縄のリアルを表現しました。

出展企画では、今年初めて「おきなわ物産センター」「全国ほるぷ多摩」が参加しました。来年もさらに参加団体を広げていきたいと考えています。

今回のOne Peace Okinawa「伝えたい、沖縄のこと」を取り組んでの感想ですが、沖縄・平和・環境をキーワードに活動している団体個人が集まり、論議をして知恵を出し合い、作り上げた成果だと思います。高江や辺野古での工事強行、名護市長選挙での基地反対候補の落選など、厳しい状況が続きますが、来年のアースデイ東京2019に向けて取り組みを広げていく決意です。（首都圏　三村昭彦）

アースデイ東京で

左写真
ONE PEACE OKINWA

アースデイ東京 2018 に参加して

炎天下の中、「One Peace Okinawa」として、ステージや基地問題に関する展示や写真展をはじめ、様々な団体のブースが集まりました。ステージではSDCCの共同代表である海勢頭豊さんのコンサートも大盛況！豊さんの歌声が心に響きました。

ブースでは多くの人が署名やグッズに足を止めてくださいました。「お店に置きたい！」とコースターを全部買ってくださった居酒屋のオーナーさん。お母さんが沖縄県出身なこともあり「今の辺野古の新基地建設のやり方が許せない」と話してくださった男性。ジュゴンの現状を話すと、涙ぐんでしまったお母さん。ジュゴン折り紙を嬉しそうに、大事そうに持って帰ってくれた子どもたち。基地建設工事が始まっていることを知らなかった、もっと学びたいと言ってくださった学生さん。「辺野古に基地はいらない」「ジュゴンを守りたい」そんな気持ちをたくさんの方と共有できました。

私自身も伝えること・署名活動を通して、きれいな海を残したいという気持ちが一層強まりました。

（首都圏　鈴木沙彩）

写真家　中村卓哉さんのトーク。大浦湾のすばらしさを存分に伝えてくださいました　。

じゅごんのてんこ盛りでブースも署名も大賑わい

ジュゴンをアピール♪

邑とジュゴン信仰 ～こらむ・コラム～

紀元前2000年の黄河流域には、既に、農耕集落の「邑」が発生していたという。そのことが、佐賀・徐福国際シンポジウム2015の資料で分かった。

驚くのは、「邑」が、龍宮神信仰、即ち、ジュゴンによって守護された地域を表わす字であるというのが、私の考えだからである。勿論、それは、自説だが、例えば、海神祭で行われる爬竜船競走の爬の字が、巴を乗せている様子を見ても、「巴」が、龍宮神ジュゴンを表わしていることは、間違いないと思うからだ。また、沖縄本島に、中山・北山・南山と拠点が分かれていた時代に、三山を統一して、琉球王国の第一尚王統を築いたのが、巴の志を示した尚巴志であったからである。彼は、琉球で初めて三つ巴紋の象徴を掲げ、守護神はジュゴンであると定めた人で、それによって、琉球王国を建国したことになる。

このように、「巴」とジュゴンは、密接に関係するのだが、しかし、「巴」がジュゴンであることを証明するには、やはり、漢字の元である甲骨文字から答えを探すしかない。それでも「巴」は、勾玉や巴の紋に似て、ジュゴンを表わした象形に見え、その「巴」に横ながの四角いエリアを乗っけたのが、「邑」ということになる。

そこで、問題は、このような字を考えた、ジュゴンを信仰する人たちが、黄河流域にいて、農耕集落「邑」を作っていたことになるが、それは、南西諸島のウチナーンチュの祖先、即ち、奴人ではなかったか？、ということであった。

海勢頭豊（うみせど　ゆたか：SDCC共同代表）

わんさか通信★ジュゴンのわ

安室ちゃんに県民栄誉賞

５月23日、歌手の安室奈美恵さんに６人目（過去２団体３個人）となる沖縄県民栄誉賞が贈られました。

１５歳でデビューしてから早２５年だそうだ、変わらず可愛いこと。全盛期ど真ん中の私世代にとっては今年９月で引退を発表しているのは残念でならない。

記念品はジーファー（かんざし）と房指輪（ふさゆびわ）とのこと。かんざしは目にした事はあるが、房指輪？は初耳だ。

房指輪とジーファ

安室さんと翁長知事（写真はいずれも琉球新報より）

調べてみると琉球王朝時代の婚礼用具だそうだ、結婚指輪みたいなものだろうか。魚や桃や扇など７つの飾りがゆらゆらする、可愛い指輪。私も欲しい！

１９９９年の甲子園初優勝した沖縄尚学野球部から始まった県民栄誉賞ですが、スポーツ分野以外では初の受賞者だそうです。

小顔代表の安室ちゃんとさほど変わらない翁長知事の痩せたお顔も気になる所ですが・・・お身体お大事に！！

（沖縄・小平）

ＩＮＦＯＲＭＡＴＩＯＮ

《　今後のスケジュール　》

＜首都圏＞

・6/10(日)「沖縄意見広告　6. 10 報告集会」 14 時～
　@全電通労働会館　主催:沖縄意見広告運動(第九期)
・6/24(日)11 時～　「第 21 回夢あ～るまつり」
@大田区池上会館　主催:第 21 回夢あ～るまつり実行委員会
7/7(土)
～沖縄問題を「本土」から考える～米軍機はなぜ落ち続ける 13:30
@明治学院大学白金キャンパス地下1階3号館 3102 教室
主催:沖縄のつどい 2018 実行委員会

＜関西＞

・6/21(木)、7/26 じゅごん茶話会　14 時～16 時
　@ SDCC 関西事務所　参加費 200 円
・7/28-29(土ー日)2018ZENKO in 大阪
　@ エル大阪　参加費 1 日券 1200 円　2 日券 2000 円
・8/19(日)映画「ZAN」上映＆川口真由美さんライブ　(予定)
　@モモの家(吹田)
・8/26(日)大阪アクション 4 周年記念集会
　ゲスト山城博治さん　@PLP 会館　14 時～　500 円

じゅごん茶話会＆After Five へお誘い

こんにちは。２０１３年から始めたじゅごん茶話会、ぼちぼち続けて６年目となりました。最近は１０名前後の参加者でにぎやかにゆんたく（おしゃべり）しています。毎月１回木曜日の昼間は、学習会という感じで、辺野古の近況を共有し、それぞれ持ち寄った情報を交換し、資料を使って平和、人権、環境問題を学んでいます。

今年になって、平日の昼間は参加できない～という声に応えて、土曜の夕方にじゅごん茶話会☆AfterFive をひらいています。こちらは、おつまみとオリオンビールとじゅごんの里（泡盛）を準備して、ちょっと飲み会のような感じです。５月１２日の AfterFive は「4/23～28 ゲート前連続６日間！５００人集中行動」に参加した人からその時のリアルな様子を聴き、国の酷いやり方に「ほんとにおかしいよね」「どうしたら止められるか」とほろ酔い気分で熱く語り合いました。

人と人がつながって、笑ったり、怒ったりしながら話し合う場は大切だなと思います。伊江島の阿波根昌鴻さんは「平和の武器は学習」と言いました。学び合える場を続けていきたいと思っています。どうぞ気軽にご参加くださいね！

★次回は６月 21 日（木）です。詳細はＨＰの掲示板をご覧ください。

第 13 回じゅごんの里ツアー
（会員向け辺野古スタディツアー）

日程　６/２９（金）～７/１（日）
参加費　３１０００円

宿泊２泊・船・レンタカー・ガイド料・食事代（飛行機代は含まれません）那覇空港集合・解散です。
詳細は下記事務所までお問い合わせください。
＊締め切り　6 月 10 日頃
定員になり次第締め切ります

アキノ隊員に聞く やんばる高江の生きものたち

6/10(日)午後 2 時～4 時　開場1時半
住まい情報センター研修室(大阪・天六)
資料代　1000 円

ヤンバルクイナにノグチゲラなど様々な生きものが暮らすやんばるの森で、調査活動を続ける蝶類研究者のアキノ隊員に、やんばるの生き物たちと米軍ヘリパッドについてお話しいただきます。 やんばるの森の生きものたちの声をどうぞ聴きに来て下さい。

6･24シンポジウムと海勢頭豊コンサート

6 月 24 日(日)午後 1 時～
沖縄大学 3 号館 101 教室
参加費　　500 円
主催 6..24 シンポ実行委（090-8524-6372）

シンポジウム「ジュゴンを救え、埋め立て承認撤回を」(仮)
特別報告　安次富宏(ヘリ基地反対協)
パネラー　真喜志好一(ジュゴン訴訟団)
　　吉川秀樹(SDCC)
　　桜井国俊(沖縄大学名誉教授)
コンサート　海勢頭豊バンド

ジュゴンちゃんぷるニュース　VOL.98　2018 年 6 月 5 日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター　Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815　東京都新宿区筑土八幡町２－２１
第１千代田ビル３０１　なかま共同事務所内　TEL/FAX　03-5228-1377
○ http://www.sdcc.jp/　○ info@sdcc.jp
(関西連絡先)　〒534-0025　大阪市都島区片町 2 丁目 9 番 21 号野口ビル 302
TEL/FAX　06-6353-0514

会費(2000 円)＆カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名　ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号　00140－9－660199
他行、コンビニからは:　ゆうちょ銀行　〇〇八支店
口座番号　普通　8159084

＊ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費２０００円で年６回ニュースをお届けします＊
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに！